

図書室だより 11月

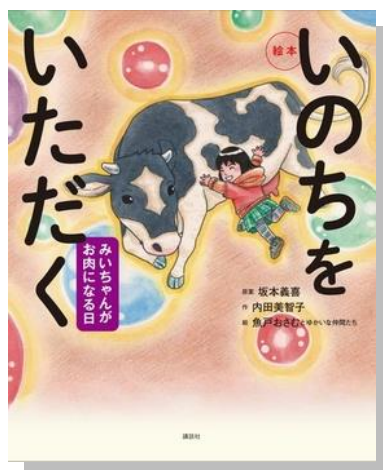
日なたの暖かさがほっとする気候になりましたね。立冬を迎え、季節はいよいよ冬になりました。図書室の開室時間は毎週月曜日から金曜日の昼休憩（12：45～13：00）と放課後（HR 終了後～17：00）です。

模様替えを行いさらに利用しやすくなった図書室に、ぜひ、足を運んでみてくださいね。

さて、前回に引き続き、今月号も先生が推薦する図書を紹介します。今回の担当は、小島先生です！



「いのちをいただく」



牛を肉にするという仕事をしている坂本さん。坂本さんのような仕事をして下さっている方がいるおかげで私たちの食卓に肉が並ぶのです。主人公の坂本さんは、大事に育てた可愛い牛（みーちゃん）を手放すことになってしまった女の子との出会いを通して、自分の職について考えます。牧場で女の子から離れるとき自分の運命を察し涙を流す牛（みーちゃん）。食肉加工場では、牛をその額にピストルのような道具でねらい仕留めます。坂本さんを前にして、頭を下げ威嚇するように角を突き出し首を振って抵抗する牛（みーちゃん）。坂本さんは、いつも女の子がみーちゃんにしていた様に優しく優しくお腹をさすりながら、何度も何度も「すまないね、すまないね」と声をかけました。すると牛（みーちゃん）は、動きを止め、優しい目で首を上げました。まるで坂本さんに差し出すように…。

動物は、みんな自分の食べ物を自分で獲って生きているのに、人間だけが、自分で直接手を汚すこともなく、奪われた命の意味も考えずに、また坂本さんのような方々の思いも知らないうちに、肉を食べています。動物だろうが植物だろうが、どんな生き物であっても、きっと自分の命の限り精いっぱい生き続けたい、そう願って生きていることでしょう。私たち人間は、食べ物をいただくとき、そこに尊い命があったことを忘れずに、その命を敬い、感謝の言葉をかけていただく気持ちが大切です。私たちができる最高の恩返しは、たくさんの生き物たちから受けた命のバトンを、いっばいに輝かせること。当たり前だけど忘れてしまいがちな、感謝の気持ちを思い起こさせてくれる感動の1冊です。



生きることは食べること。食べるためには「いのちをいただく」必要があります。たくさんの「いのち」に生かされている私たちは、せわしない日々の中で大切なことを忘れがちです。「いのち」について、自分の日々のあり方について、今一度考えてみませんか？

この、『いのちをいただく』は図書室に置いてあります。是非読んでみてください。

本に夢中になる体験が あなたの大きなエネルギーに

本は表現のごちそうだ！

本の中には言葉がつまっていることはもちろん、様々な表現がたくさん出てきます。表現のごちそうを味わうことは、あなた自身の言葉に深みを持たせ、表現力を豊かにします。すべてを「やばい！」で済ませてしまうのは惜しいですよ。日本人ならではの言葉の面白さを学び、使ってみましょう。

読書は無駄にならない！

読書で出合うたくさんの言葉や感情、考え方は現実でも応用できます。また、読んだり書いたりすることは、すべての教科の土台であるため、勉強面でもプラスになります。読書することで、自然と文章を組み立てる力も培われるため、志望理由書や小論文の作成にも役に立ちますよね。読書は、決して無駄になりません。

1冊との出会いが 未来にもつながる！

読書することには、さらにたくさんのいいことがあります。例えば、本には様々な人生が描かれているため、そこから生き方や考え方を学びます。また、1冊を読みきることで自信や意欲など、生きる力ともいえる力が培われることもわかっています。（右図参照）
もしかしたらその1冊との出会いが、あなたの人生を変えるかもしれません。入口は、絵本、漫画、何でもいいです。さあ、読書をしてあなたの世界を広げてみませんか？



国立青年少年教育振興機構が大人を対象にした調査では、幼児期から中学生までの読書活動が多い人ほど、前向きで、充実した日々を送っているという結果が。「自分のことが好き」「何でも最後までやり遂げたい」といった意識が、読書活動が少ない人に比べて20ポイント以上も高い傾向にあります。

中学時代までの読書活動と現在の意識・能力との関係

